

文化芸術推進会議（第5回）議事要旨

日 時：令和5年3月3日（金）13:20-14:00

場 所：文部科学省（東館）3階 3F2特別会議室

出席者：都倉 文化庁長官
表 内閣官房内閣審議官
尾川 内閣府知的財産戦略推進事務局企画官
山碕 総務省大臣官房審議官（情報流通行政担当）
三浦 外務省大臣官房文化交流・海外広報課首席事務官
河西 財務省関税局総務課長
井上 文部科学省大臣官房総括審議官
杉浦 文化庁次長
野村 厚生労働省大臣官房審議官
安楽岡 農林水産省大臣官房審議官（兼輸出・国際局・新事業・食品産業）
藤田 経済産業省大臣官房審議官
茂木 経済産業省商務サービス審議官
小善 国土交通省大臣官房審議官（総合政策）
中村 観光庁観光地域振興部長
松本 環境省大臣官房審議官

議 題：(1) 文化芸術推進基本計画（第2期）（案）について
(2) その他

概 要：

- 冒頭、都倉文化庁長官より挨拶があった。
- 議題1について、文化庁より、資料1、資料2に基づき、文化芸術推進基本計画（第2期）の策定についての説明が行われた。

その後、討議が行われ、その概要は以下の通り。

- ・経済産業省（藤田大臣官房審議官）より、ライブエンタメをはじめとするコンテンツ産業の基盤強化、新たなビジネスモデルの変革の促進に取り組んでいく旨の発言があった。
- ・経済産業省（茂木商務サービス審議官）より、産業や企業から文化に対する資金循環を作り、それを通じた人材育成や地域活性化を図ることが重要であること、アート分野では企業が所有するアートを活用する観点から「企業コレクションを覗いてみよう展」が開催予定であること、ファッション分野ではデジタル化や国内の素材の産地の発信を推し進めていること、デザイン分野では全国の企業ミュージアムや美術館等に散在している

デザインをバーチャルに集めたデザインミュージアムの在り方について検討を始めていること、2025年大阪・関西万博に向け、日本博とも連携しながら、会場の中と外の催事によってインバウンドにつなげていきたいこと等について発言があった。

- ・都倉文化庁長官より、全国で展開されている文化芸術が散在したままではトレンドを形作ることができないので大阪・関西万博など10～20年を見据えて文化芸術が集う場所を作り、様々な芸術やアートに関連付けていくことが重要である旨、発言があった。
- ・農林水産省（安楽岡大臣官房審議官）より、農政では輸出が大きな柱になっており、日本の多様な食文化を発信していくことが重要であること、各省とも協力しつつコンテンツと連携したプロモーションや、地域に根差した郷土料理に対する理解の普及を進めていくこと、「和食」のユネスコ無形文化遺産登録10周年を契機としつつ、2025年大阪・関西万博や2027年横浜国際園芸博覧会に向けてインバウンドに向けた食文化の発信を進めていくこと等について発言があった。
- ・内閣官房（表内閣審議官）より、基本計画（第2期）案の内容がバランスの取れたものになったことについて各省庁へ謝意が示されるとともに、関係省庁で緊密に協力して進めていく観点から推進会議の開催頻度も含めて考えたい旨の発言があった。
- ・観光庁（中村観光地域振興部長）より、インバウンド増に向けて補正予算による観光再始動事業をしっかりと進めていきたいこと、文化芸術は特に我が国の有効なコンテンツであること、全国各地への来訪者増加に向け、アートやアニメ、伝統芸能等の文化資産を十分に活用してコンテンツ造成につなげていきたいこと、今月末までに策定予定の新たな観光立国推進基本計画に基づき、関係省庁と連携しながら取り組んでいきたいこと等について発言があった。

- 今後、年度内の閣議決定に向けて各省庁に協力をいただきたい旨、文化庁から発言があり、議事は終了した。

以上